

香福茸普及指導情報 令和6年度 第3号



11月からはほだ起こし・ハウス搬入の時期です!

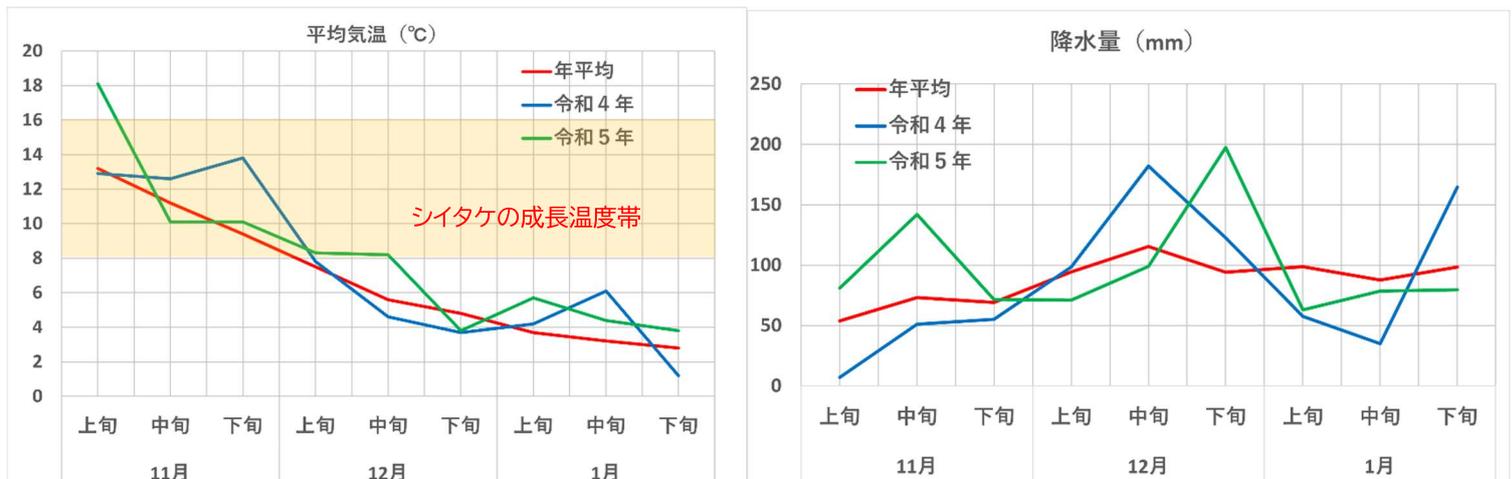
ほだ起こしは、11月（上旬～下旬）の時期に数回に分けて実施します。目安としては、ほだ場にて本伏せを行っているほだ場全体の中で最初のシイタケ（走り子）が発生した時（5℃以下の日が2、3日続いた時なども可）がほだ起こしをする時期です。

作業としては天地返し（ほだ木の上下をひっくり返す）や適度な刺激（ほだ木運搬による車の振動や縦にほだ木を落とす）を行います。強すぎる刺激はほだ木を痛めてしまったり、小さいシイタケが発生してしまう可能性があるため注意してください。

香福茸を発生させるのに適しているのはハウス栽培です。ハウス内では水分や温度管理、成長確認などがほだ場より容易にできます。

ハウスを持っていない生産者の方は雪や雨が当たらないように簡易な屋根や被覆ビニールなどを設置し、シイタケの笠に水分が含まれた状態（雨子）にならないようにしましょう（露地栽培の場合はハウスに比べ温度が低いため成長は遅くなります。）

過去2年間および年間の平均気温および降水量（11月～1月）



晩秋、冬(11～1月)の管理について

ほだ起こし後の管理として、シイタケの身の締りをよくするため、寒暖差を与えるようにハウス内の空気の入替えは毎日行ってください。温度を管理する場合は、温度計をほだ木の高さと同じ場所に置いてください（目の高さでは温度が高く出てしまいます）

散水はスプリンクラーがある場合は1～2日毎にほだ木が濡れる程度行うのが理想です。

スプリンクラーがない場合はハウスの上部をあげ雨を取り入れるか、ホースのシャワーヘッドなどで長時間水分を与えてください。

シイタケがある場合は雨子にならないように袋掛けをするか採取してください。

気温が高い時は成長が早くなるため、シイタケの確認を行ない、傘が開ききる前に採取してください（武生青果の香福茸集荷は毎週木曜日となっています）

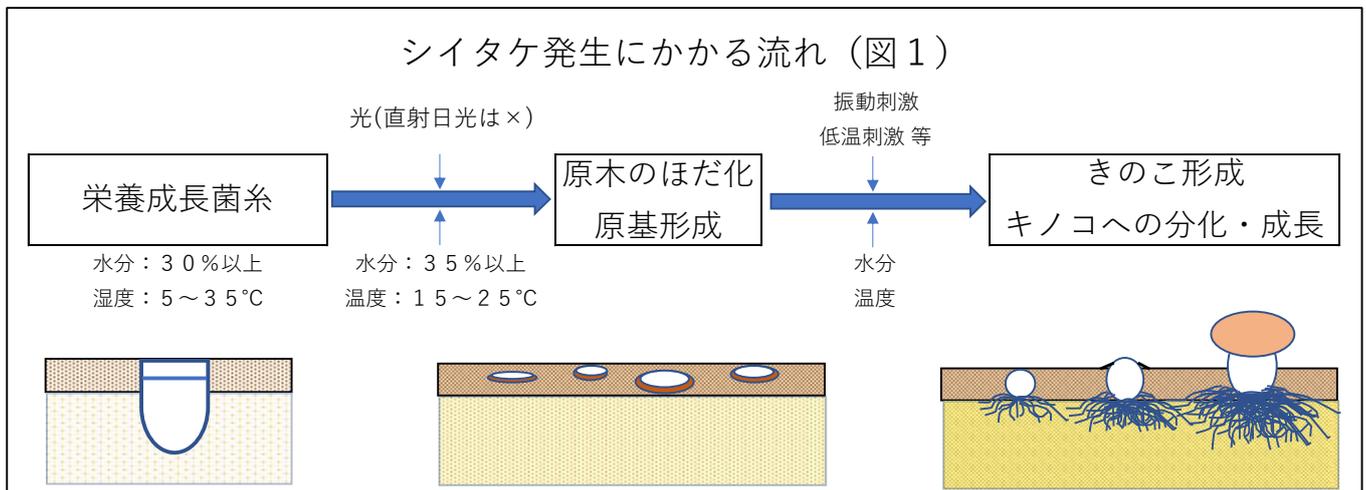
シイタケ発生にかかるメカニズム

シイタケは木材を腐らせながら成長する「腐生菌」で、腐朽した材が白色になる白色腐朽菌と言われ、木材内のリグニンを分解しながら成長していきます（菌糸紋が白なのはこのため）

シイタケは、植物に例えると花に当たり、菌糸（シイタケの元となるもの）が葉や茎、ほだ木が土になります。

シイタケは植菌後、ほだ木内に活着し、木材組織を分解しながら材内に菌糸が蔓延していきます。蔓延が進み、菌糸量が増えた状態で適度な温度、水分、光が与えられると原基（シイタケの芽）が形成されます。形成された原基は一定の温度や水分を得て肥大成長をはじめ、シイタケに成長します。

良い椎茸づくりには適度な温度、水分、光、刺激が必要になります（図1）



袋掛けのタイミングについて

袋掛けは、軸が太く、大きくなりそうなものに対し行います。袋掛けを行うことで保温保湿効果が高まり、育成が促進されます。

袋掛けを行うタイミングは、シイタケがピンポン玉くらい（約4cm）になった時行います。傘が濡れているときは、水分が抜けず湿ったままとなるため行わないでください。

香福茸生産にかかる相談窓口

次回の香福茸普及指導情報の発行は12月中旬の予定です。

地域	事務所名	住所	電話番号
福井市、永平寺町	福井農林総合事務所 林業部	福井市松本3-16-10	0776-21-8213
あわら市、坂井市	坂井農林総合事務所 林業部	坂井市三国町水居17-45	0776-81-3223
大野市、勝山市	奥越農林総合事務所 林業部	大野市友江11-10	0779-65-1492
鯖江市、越前市、越前町 池田町、南越前町	丹南農林総合事務所 林業部	越前市上太田町41-5	0778-23-4961
敦賀市、美浜町 若狭町(旧三方町)	嶺南振興局 二州農林部	敦賀市中央町1-7-42	0770-22-0291
小浜市、高浜町、おおい町 若狭町(旧上中町)	嶺南振興局 林業水産部	小浜市遠敷1-101	0770-56-2218
総合窓口	総合グリーンセンター 技術指導G	坂井市丸岡町楽間15	0776-67-0002